

八峰町学校施設の長寿命化計画

令和3年3月

八峰町教育委員会

-目次-

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	2
(1) 背景	
(2) 目的	
(3) 計画期間	
(4) 対象施設	
2 学校施設の目指すべき姿	3
(1) 教育行政の方針	
(2) 公共施設等の方向性	
3 学校施設の実態	4～11
(1) 運営状況・活用状況等の実態	
(2) 学校施設の配置状況	
(3) 施設関連経費の推移	
(4) 学校施設の保有状況	
(5) 老朽化の実態	
(6) 今後の維持更新コスト(従来型)	
(7) 今後の維持更新コスト(長寿命型)	
4 学校施設整備の基本的な方針等	12～13
(1) 施設整備の基本的な方針	
(2) 改修等の基本的な方針及び今後40年間の計画	
(3) 今後5年間の計画	
(4) 継続的運用方針	
(5) 情報基盤のデータベース化と活用	
(6) 推進体制の整備	
(7) フォローアップ	

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

(1) 背景

八峰町の学校施設は、昭和50年代から平成初期にかけて整備されています。

今後は少子化による児童生徒数の減少を踏まえ、老朽化した学校施設の効率的かつ円滑な更新が必要となります。

(2) 目的

八峰町学校施設の長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的に評価し、長寿命化や改修及び建替えについて長期的な計画を検討し、教育環境の質的改善も考慮しながら優先順位を設定し、要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

(3) 計画期間

令和3年度～令和42年度(5年ごとに見直し)

計画期間は40年間とし、老朽化等について定期的に調査を行い、原則として5年ごとに計画を見直します。ただし、児童生徒数の変化、国の補助制度等の動向により、対応が必要な場合には、随時見直すものとします。

(4) 対象施設

小学校	2校
中学校	1校

2 学校施設の目指すべき姿

(1) 教育行政の方針

本町の学校教育の基本目標は、「八峰町教育大綱」において「彩り豊かな文化とふるさとをささえる人づくり」としています。

□八峰町教育大綱

『大綱の基本計画』より抜粋

彩り豊かな文化とふるさとをささえる人づくり

《学校教育の充実》

統合により誕生する新しい小中学校が保護者や地域の期待に応えて特色ある教育活動を展開できるよう、既存の学校も含め人的配置や施設設備など教育環境を整備します。学校が一層保護者や地域住民に開かれ、信頼されて、さらに地域の教育力を活用した教育実践が行われるよう教育行政としての役割を果たします。改定指導要領の趣旨が活かされ、新しい学力観に基づいた教育課程が編成されて意欲的に実践できるよう各種施策を展開します。特に、ICTの一層の活用策や英語・外国語活動の先進的な展開、さらに持続可能な社会を支える人材育成としてのふるさと教育の充実に努めます。

この計画の実現に向け、施設の老朽化対策について計画的に対応し、学校の教育的効用を維持するための修繕等を実施します。

(2) 公共施設等の方向性

本町の公共施設等の管理や整備に関する基本的な方針は「八峰町総合公共施設等総合管理計画（平成29年3月）」に示されており、学校教育系施設については、以下のとおりとなっています。本計画はこの基本方針に基づき策定します。

□八峰町総合公共施設等総合管理計画

『第4章 施設分類ごとの管理に関する基本的な方針』より抜粋

学校施設については、近年統廃合を進めてきたことにより、現在は小学校2校、中学校1校となったところです。今後も将来の児童生徒数や社会環境の変化により、学校の適正規模・適正配置を検討します。

3 学校施設の実態

(1) 運営状況・活用状況等の実態

① 対象施設一覧

名称		住所	児童生徒（人）		学級数（学級）	
			通常学級	特別支援	通常学級	特別支援
小学校	1. 八森小学校	八峰町八森字滝の上 117 番地	84	1	6	1
	2. 峰浜小学校	八峰町峰浜水沢字カッチキ台 7 番地 1	87	1	6	1
小学校計			171	2	12	2
中学校	1. 八峰中学校	八峰町峰浜田中字野田沢 40 番地 1	121	1	5	1
	中学校計			121	1	5

※ 児童生徒数及び学級数は「児童生徒数・学級推計報告書」による令和3年度推計人数

② 児童・生徒数及び学級数の変化

少子化により児童・生徒数は減少を続けており、小学校の児童数及び普通学級数は計画開始の令和3年度には173人・12学級、計画完了年度の令和42年度には51人・12学級まで減少することが予測されます。同様に中学校の生徒数は令和3年には122人・5学級、令和42年度には30人・3学級まで減少することが予測されます。

今後も児童・生徒数の減少を踏まえながら、適切な学習環境を提供できるように計画を進める必要があります。

■ 学校児童生徒数・普通学級数の推移

		2010	2015	2020	2021	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
		H22	H27	R2	R3	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
小学校	人数	364	260	206	173	143	129	111	99	89	76	62	51
	学級数	18	18	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
中学校	人数	209	178	117	122	89	77	66	59	53	45	37	30
	学級数	7	6	5	5	3	3	3	3	3	3	3	3

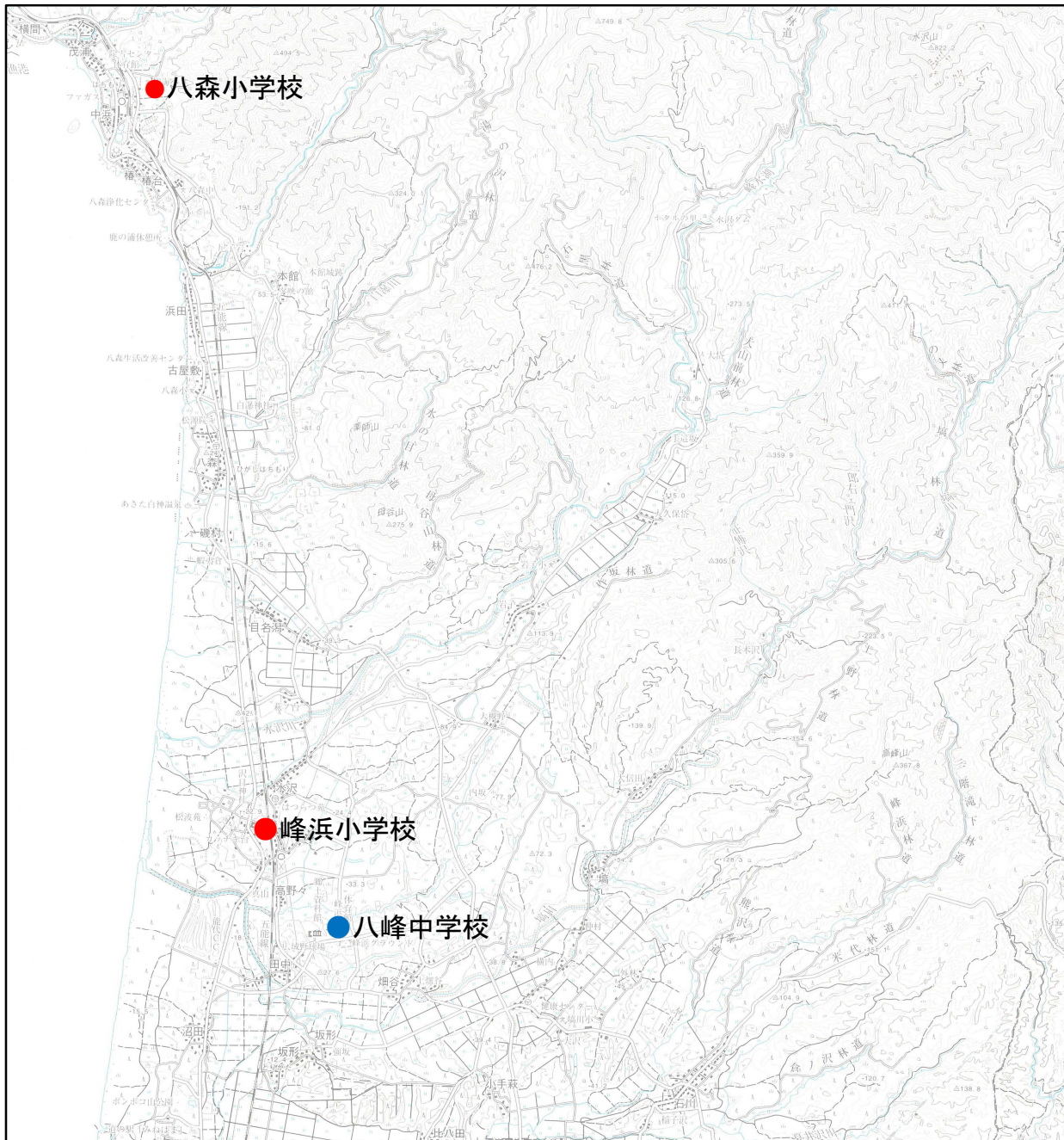
※R2の数値は在籍数（R3年1月31日時点）、R3及びR7の数値は「児童生徒数・学級推計報告書（令和2年度）」による。

※R12以降の数値はR2及びR7の年少人口に対する児童数・生徒割合を求め、その平均値を変化率とし「八峰町人口ビジョン（平成27年10月）」の年少人口将来推計値に変化率を乗じることで児童・生徒数とした。

(2) 学校施設の配置状況

小学校は地域コミュニティの中核施設として大きな役割を果たしており、地域性や歴史的背景を考慮して、八森地区、峰浜地区に各1校配置しています。

中学校は町内に1校配置しています。



(令和3年3月現在)

(3) 施設関連経費の推移

① 近年5年間の施設関連経費の推移

平成27年度から令和元年度における5年間の学校施設関連経費は平均で約1億8千万円となっています。

平成27年度は学校統合に伴い、峰浜小学校と八峰中学校の大規模改修工事を実施したことから施設関連経費が高くなっています。

今後は事後保全となる大規模改修等で経費がかさむ前に、長寿命化となる予防保全を行い、経費を抑えコストの平準化を図る必要があります。

(千円)

項目	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	5年間平均
施設整備費	818,386	11,794	0	0	0	166,036
その他の施設修繕費	0	18,590	3,813	7,581	0	5,997
維持修繕費	1,740	4,344	5,574	3,480	1,746	3,377
光熱水費・委託費等	7,257	7,913	8,867	9,420	9,030	8,498
施設関連経費合計	827,383	42,641	18,254	20,481	10,776	183,908

経費の分類

施設整備費	校舎、体育館の改築や大規模改修に係る事業費
その他の施設整備費	グラウンド、プール、倉庫等の改修や整備に係る事業費
維持修繕費	小破修繕や部分補修等に係る経費
光熱水費・委託費等	光熱水費、プール・消防設備・電気保安・防火設備点検等の委託に係る経費

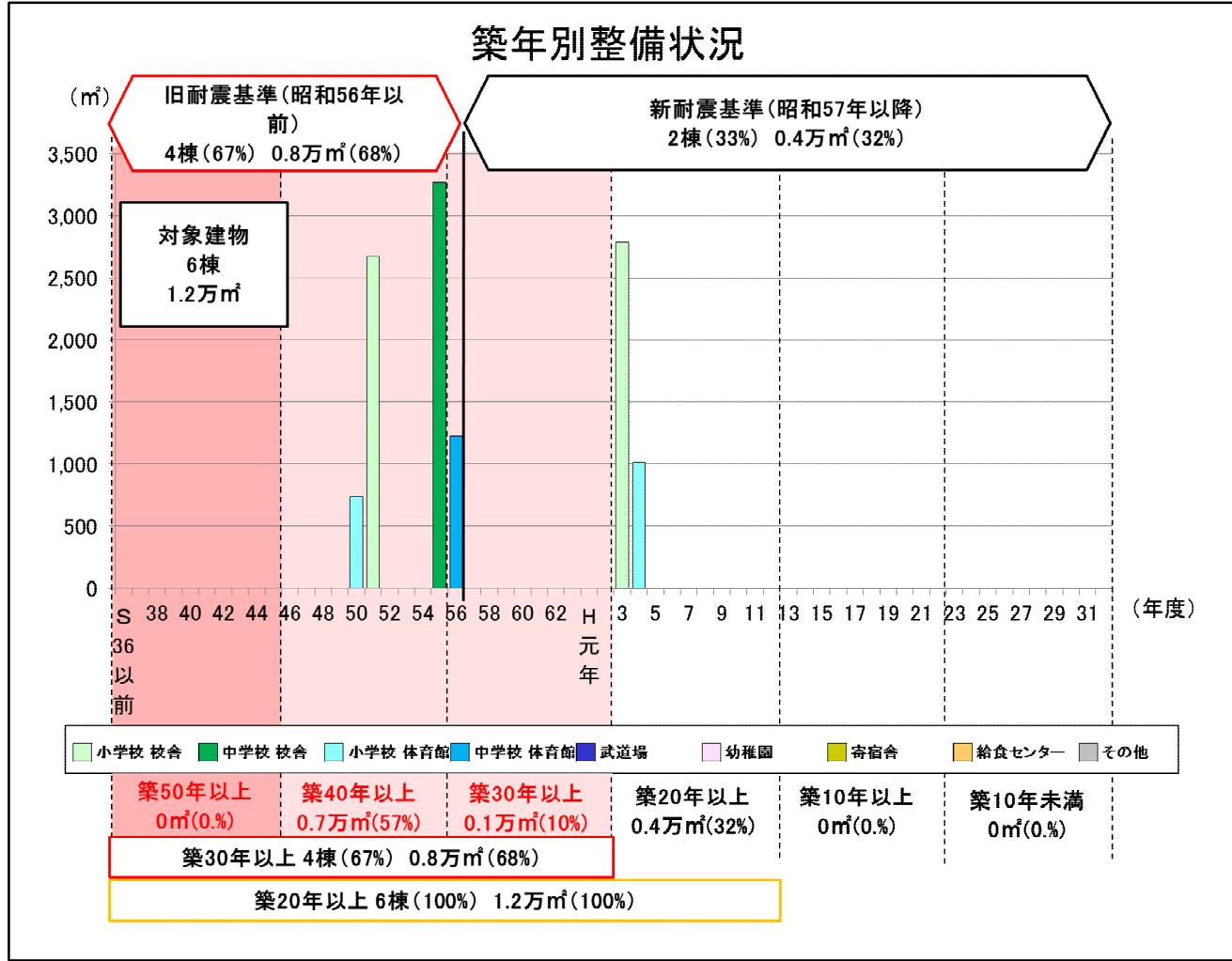
② 過去5年間の主な施設整備内容

- ・平成27年度 峰浜地区統合小学校改修工事
- ・平成27年度 八峰町統合中学校改修工事
- ・平成28年度 八森小学校空調設備工事

(4) 学校施設の保有状況

八峰町が保有する校舎・屋体棟は6棟あります。築年数30年以上の建物は4棟となっています。今後、建築や大規模改修からの年数が経過した建物については老朽化の状況を基に改築の検討をする必要があります。建築からの年数は50年を目安とします。

比較的新しい施設については長寿命化に向けた改修を実施していく必要があります。



～築40年以上の学校施設～

施設名	建物名	これまでの大規模改修等
八森小学校	校舎	H19～20年度 大規模改修 (老朽、耐震)
	体育館	H19～20年度 大規模改修 (老朽、耐震)
八峰中学校	校舎	H27年度 大規模改修 (老朽)
	体育館	H22年度 大規模改修 (耐震)
		H27年度 大規模改修 (老朽)

(5) 老朽化の実態

経過年数及び改修状況、定期調査の結果等から劣化状況を評価した結果、下記一覧表の通りとなりました。大規模改修工事から10年以上が経過した建物に関しては健全度が低くなりました。

建物情報一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上 基準 2020

A:概ね良好 C:広範囲に劣化
B:部分的に劣化 D:早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考			
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備		機械設備	健全度(100点満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/㎡)								試算上の区分
1	1231	八森小学校	校舎	1-1.1-2.2.3.4-2		小学校	校舎	RC	2	2,673	1976	S51	44	旧	済	済	H18	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	H19.20 大規模改修
2	1231	八森小学校	屋体	4-1.4-3.4-4		小学校	体育館	S	1	733	1975	S50	45	旧	済	済	H18	-	長寿命	B	C	C	B	B	52	H19.20 大規模改修
3	1284	峰浜小学校	校舎	12-1.12-2.14.19		小学校	校舎	RC	2	2,785	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27 大規模改修
4	1284	峰浜小学校	屋体	15-1.15-2		小学校	体育館	S	1	1,013	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27 大規模改修
5	4222	八峰中学校	校舎	1.2-1.2-2.2-3.3		中学校	校舎	RC	3	3,267	1980	S55	40	旧	済	-	H21	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27 大規模改修
6	4222	八峰中学校	屋体	5-1.5-2		中学校	体育館	S	1	1,226	1981	S56	39	旧	済	済	H21	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27 大規模改修

※延べ床面積が200㎡以上を対象としています。

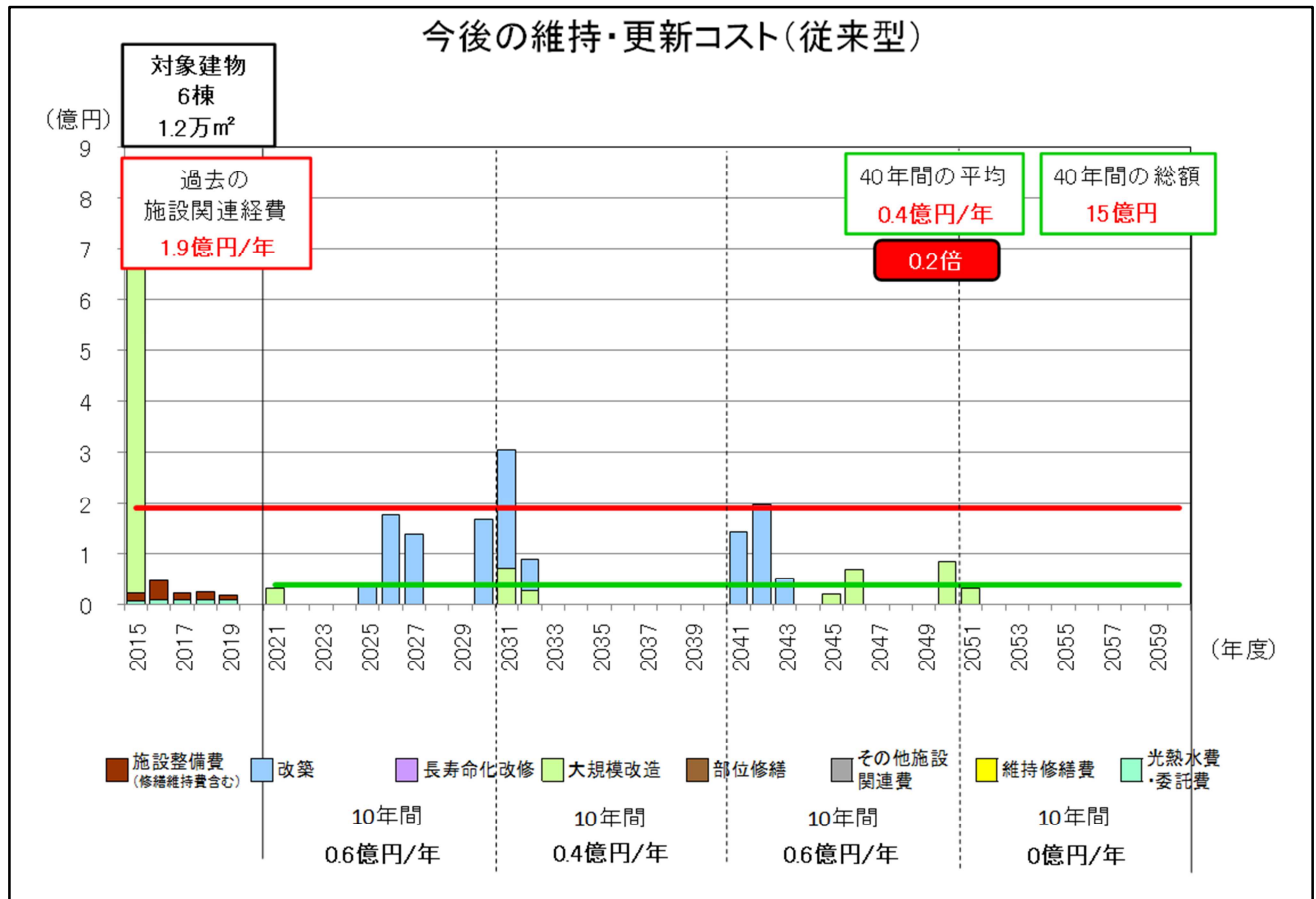
～健全度～

各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値した評価指標

(6) 今後の維持更新コスト(従来型)

築年数50年を経過した建築物を改築、もしくは大規模改修工事を行う従来の修繕・改修を行った場合の今後40年間のコストは、下図に示すとおりで、総額15億円、年平均は約4,000万円となります。これは直近5年間の年平均1.9億円の約0.2倍となります。試算上での改築年度が連続するため、その時期に経費が集中することとなります。

財政負担の縮減及び平準化を図るため、これからの学校施設の維持管理は従来の『事後保全型(壊れたら修繕する)』から『予防保全型(経過年数に応じて計画的に修繕する)』へと転換する長寿命化型改修による対応を検討する必要があります。



～コスト試算の条件(従来型)～

項目	周期	工期	単価(円)/㎡
改築	50年	2年	103,235
大規模改修	20年	1年	25,809

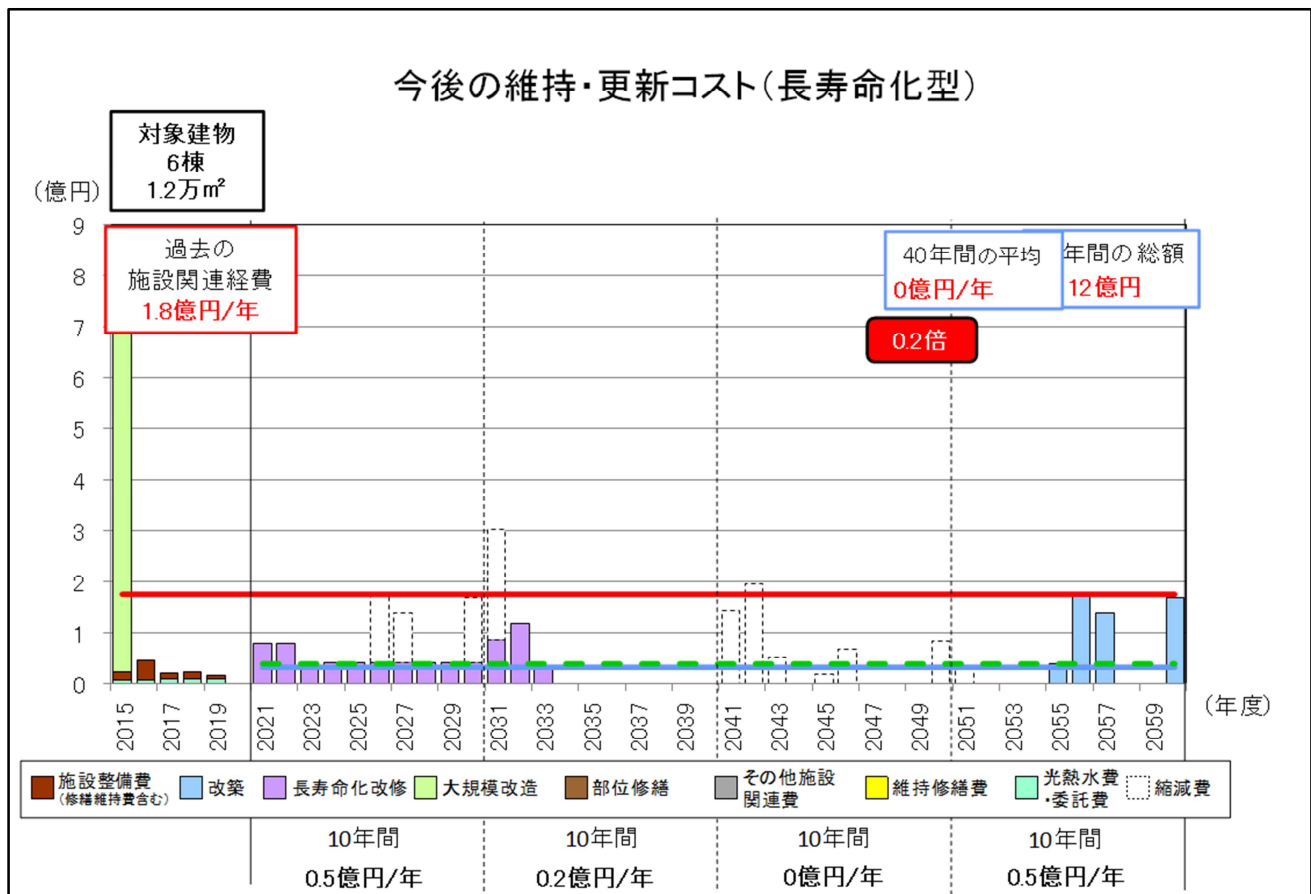
※改築単価は「環境保全センターLCC計算プログラム」の改修単価を基に、過去の工事費を差し引いた金額から算出

※大規模改修単価は改築の25%

(7) 今後の維持更新コスト(長寿命型)

従来型の改築、大規模改修工事中心から、長寿命化型の改修に切り替えた場合のコストを試算しました。長寿命化により80年間建物を使用した場合、今後40年間のコストは総額で12億円となり、年平均は約3,000万円となります。従来型のコストよりも総額で3億円、年平均も1千万円ほどの減額となります。

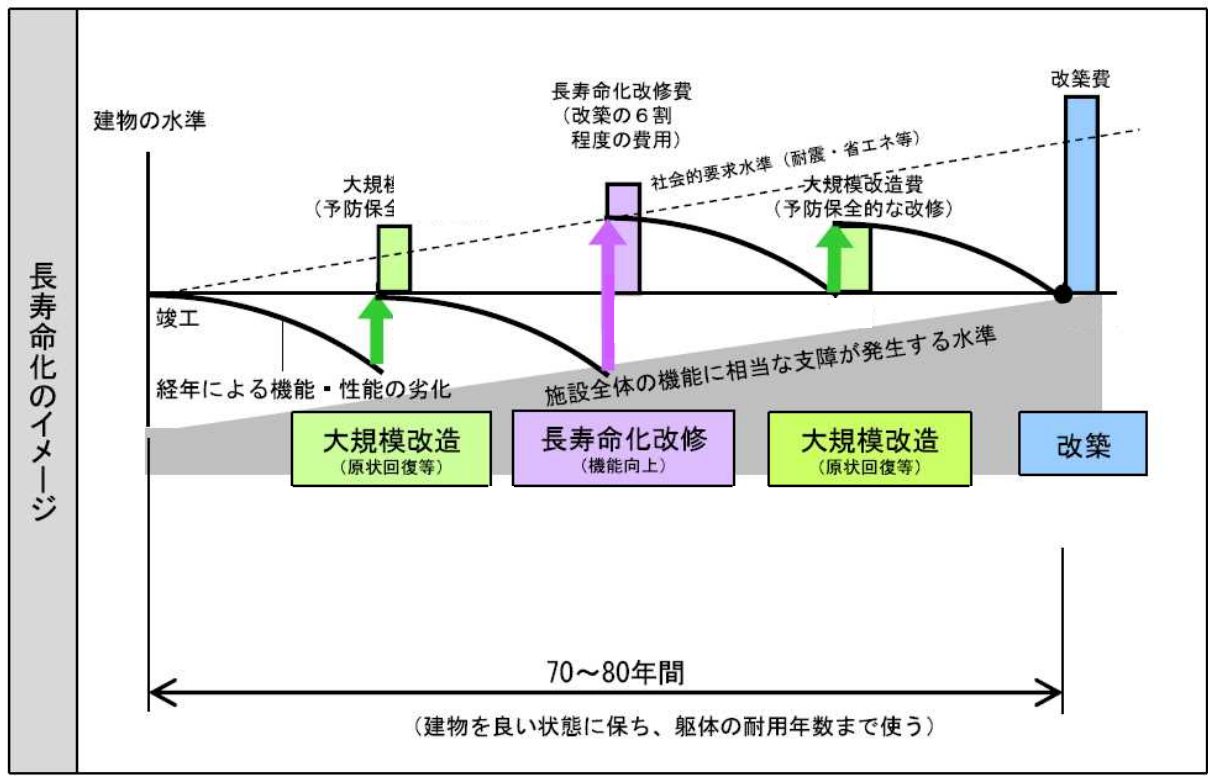
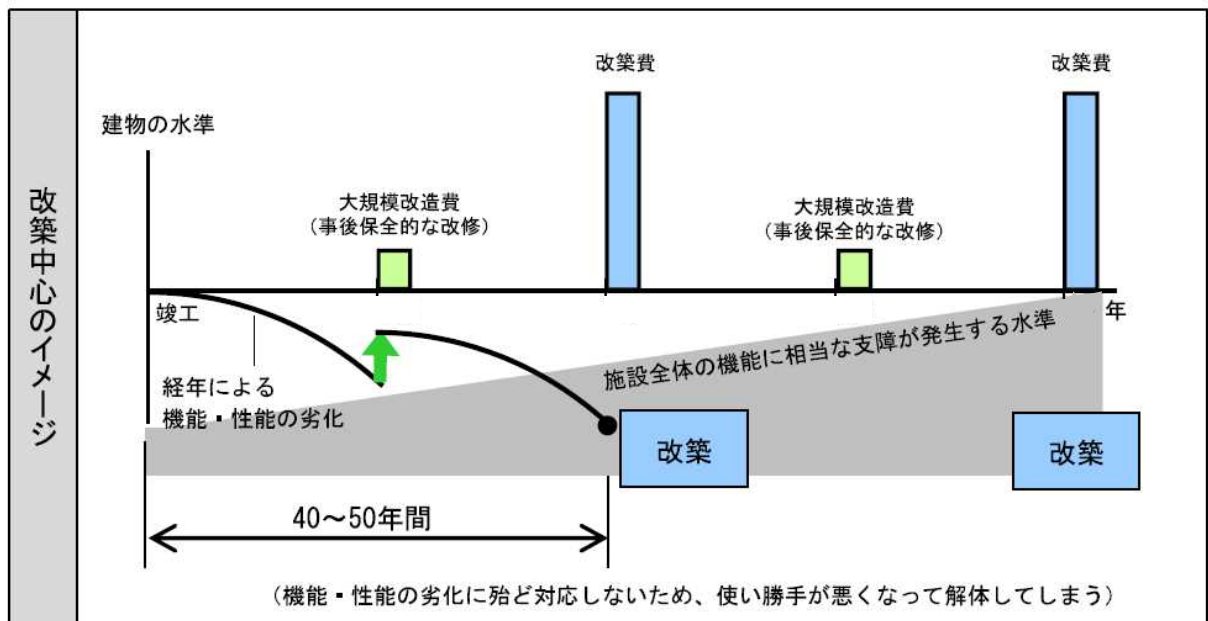
試算上では長寿命化改修の年度が続くこととなりますが、従来型に比べて各年度におけるコストの平準化を図ることができます。



～コスト試算の条件(長寿命型)～

項目	周期	工期	単価(円)/㎡
改築	80年	2年	103,235
長寿命化	40年	2年	61,941
大規模改修	25年	1年	25,809

※改築単価及び大規模修単価は従来型と同額、長寿命化改修単価は改築の60%



改築中心から長寿命化への転換のイメージ

4 学校施設整備の基本的な方針等

(1) 施設整備の基本的方針

八峰町公共施設等総合管理計画の基本方針	①総量の適正化 保有する公共建築物の延床面積28%縮減を目標 ②長寿命化の推進 ③民間事業者や県・近隣自治体との連携
施設類型別方針 【学校教育系施設】	学校施設については、近年統廃合を進めてきたことにより、現在は小学校2校、中学校1校となったところです。今後も、将来の児童生徒数や社会環境の変化により、学校の適正規模・適正配置を検討します。

(2) 改修等の基本的な方針及び今後40年間の計画

学校施設の規模・配置計画等について、地域の将来像を見据えた適正な配置等の検討を行うとともに、統廃合や規模縮小等による施設保有量の適正化を図る必要があります。今後の改修・更新にあたっては、児童生徒数を適切に踏まえた規模とします。

また、児童生徒の安全を守るために事後保全ではなく予防保全を行う必要があります。定期点検等を実施し、計画的に予防保全を行い長寿命化を推進し、学校運営に支障をきたすことなく一定水準の施設環境を維持していくことで費用の平準化を図ることが出来ます。

今後は状況に応じて老朽化が進んでいる建物の優先的な改修や修繕を検討します。

(3) 今後5年間の計画

必要に応じて長寿命化に関する改修を検討します。

財源は学校環境改善交付金等の利用を見込んでおり、着実な推進を図ります。

(4) 継続的運用方針

計画の推進にあたっては、Plan(策定)→Do(実行)→Check(検証)→Action(見直し)というPDCAサイクルを実行し、無駄のない高効率の事業推進を目指します。

また、本計画は40年間の計画であり、長寿命化サイクルが40年以上と長期的なものとなるため、点検・評価結果に加えて、学校教育を取り巻く情勢変化を踏まえて5年を目安とし、随時見直しを行います。

(5) 情報基盤のデータベース化と活用

施設ごとの基本情報、改修履歴、法定検査結果や各学校における日常点検調査票及び専門家による建築基準法第12条点検、劣化状況調査結果等を八峰町教育委員会において管理し、適切な修繕・維持管理を行っていきます。

(6) 推進体制の整備

学校施設の所管課である学校教育課が中心となり、公共施設等総合管理計画との整合性を図るとともに、各関係機関との連携を図りながら進めていきます。

(7) フォローアップ

本計画に基づき、具体的な個別施設計画を策定し、学校施設の整備を実施するとともに、定期的に施設の管理状況を評価することとします。

計画については社会情勢の変化等に応じた見直しが必要なことから、原則として本計画の見直しは5年後(2026年)に行うこととし、必要のある場合は随時見直しを図ります。

八峰町学校施設長寿命化計画

令和3年3月

八峰町教育委員会 学校教育課

〒018-2641 八峰町八森字中浜196-1

電話：0185-77-2816

F A X：0185-77-3230